

保育士・教員養成課程における音楽理論の理解と簡易伴奏法の習熟度について

—「音楽Ⅲ」における集団授業の実践をとおして—

武田恵美*

1. はじめに

保育者・教員養成課程において、音楽理論を理解することやピアノの演奏技術を習得することは重要な課題である。そして、ピアノの演奏技術の中でも簡易伴奏法を習得することは、子どもがうたう活動を指導・援助するという観点から重要なことであると考えられる。

学生の現状は、①中学校における音楽科授業を終えてから音楽にふれていない学生、②高等学校における音楽科の授業を選択した学生、③課外活動で音楽指導を受けた経験がある学生など様々である。学生の音楽経験には個人差があり、保育士・教員養成課程の学生は、ピアノの演奏技術を習得する過程に対する不安や苦手意識を持っているようである。

また、武田（2018）では、短音階（イ短調）の和音について理解することの必要性、子どもの表現を導く簡易伴奏法の知識及び技術習得の必要性を明らかにしている¹⁾。

筆者は、音楽理論を理解することやピアノの演奏技術を習得する過程において、学生が理解度や習熟度を上げる授業内容及び授業展開を研究する必要があると考えていることから本研究を展開した。本研究は、「音楽Ⅲ」第15週で実施した確認試験の結果を基に、学生の音楽理論の理解度、簡易伴奏法の習熟度を分析し、以降の授業内容及び授業展開を検討し考察するものである。

2. 研究目的

2018年度春学期に開講した「音楽Ⅲ」第15週において実施した確認試験の結果を基に、音楽理論の理解度及び簡易伴奏法の習熟度を分析することによって、以降の授業内容及び展開方法を検討し、改善点を明らかにすることを目的とする。

3. 研究手順

- (1) 「音楽Ⅲ」集団授業における授業内容の詳細な時間配分をまとめる。
- (2) 「音楽Ⅲ」第15週において実施した確認試験の結果を集計する。
- (3) (2)の結果から、音楽理論の理解度、簡易伴奏法の習熟度をはかる。
- (4) 以降の授業内容及び展開方法を検討し考察する。

尚、確認試験（筆記試験②・実技試験②）の対象は、「音楽Ⅲ」の受講者92名で、そのうち89名が受験した。

* 東海学園大学教育学部非常勤講師

4. 研究概要

4-1. 授業概要

「音楽Ⅲ」は、45分入替制で集団授業とピアノ実技レッスンを行っている。そして、受講者は92名、確認試験の受験者は89名である。授業の到達目標は、コードネームによる簡易伴奏法の習得により、子どもの歌の弾き歌いができるようになることである。簡易伴奏法の演習では、保育・教育現場で用いられる歌に多く見られる、ハ、ト、ヘ、ニ長調について取り上げ、その主要三和音を指導している。主要三和音は、主和音を「I」とし、基本形で演奏する。そして、属和音を「V」とし、第一転回形で演奏する。また、下屬和音を「IV」とし、第二転回形で演奏する。

4-2. 授業内容の時間配分

「音楽Ⅲ」集団授業における授業内容の詳細な時間配分をまとめる（表1）。

尚、授業内容の詳細は、講義と演習に分けて記し、時間配分を示している。また、該当しない部分には「-」を付している。さらに、時間配分は、入替制授業を行っているため約40分で構成するようにしている。

表1 授業内容の時間配分

週	シラバス (授業計画)	授業 形態	授業内容の詳細	時間配分
1	授業説明	-	・授業内容及び単位習得に関する事項を理解する。	-
2	和音とは・音名	講義	・日・伊・英語で音名を理解する。(練習問題を解くことを含む) ・和音の概念、和音記号、主要三和音、根音を理解する。 ・簡易伴奏は、主要三和音を基に考えることを理解する。	40分
		演習	-	0分
3	調性	講義	・長音階、短音階を理解し、24の調を知る。 ・調名、主音と調号の関係性を理解する。(練習問題を解くことを含む) ・日・英語の調名を理解する。 ・調号から調性を理解する。(練習問題を解くことを含む)	40分
		演習	-	0分
4	ハ長調主要三和音	講義	・子どもの歌の調性を探る。 ・ハ長調の音階、和音を理解し、和音記号をから主要三和音を探る。	35分
		演習	・ハ長調の主要三和音を左手で弾く。	5分
5	ハ長調主要三和音 とコードネーム	講義	・コードネームを理解する。 ・ハ長調主要三和音のコードネームを理解する。 ・和音の基本形、転回形を理解し、構成音から和音を判断する。	32分
		演習	・和音記号とコードネームを見ながら、ハ長調の主要三和音を左手で弾く。	8分
6	ハ長調主要三和音 の演習	講義	・Iの和音を基本としてIV、Vの和音を近隣の鍵盤から探す。 ・ハ長調主要三和音の様々な連結パターンを習得する。 ・主要三和音の和音記号とコードネームが一致する力を習得する。	25分
		演習	・和音記号とコードネームを見ながら、ハ長調の主要三和音を左手で弾く。 ・ハ長調の主要三和音を、和音記号を見ながら様々な連結パターンで弾く。 ・「メリーさんの羊」、「せんせいとおともだち」、「おかえりのうた」を左手のみの簡易伴奏で弾く。	15分
7	ハ長調コードネーム で伴奏付け	講義	・6週までの授業内容の確認。	15分
		演習	・コードネームを手の形や音の響きに注意しながら習得する。 ・「ちょうちょう」、「思い出のアルバム」、「きらきら星」、「かたつむり」、「とんぼのめがね」、「どんぐりころころ」、「春がきた」、「虫の声」を左手のみの簡易伴奏で弾く。	25分
8	ピアノ実技試験	-	・集団授業は実施しない。	-
9	ハ長調主要三和音 と伴奏付けの確認	-	・筆記試験①(音名、和音、調性、ハ長調主要三和音、和音記号、コードネーム) ・実技試験①(ハ長調主要三和音の和音記号及びコードネーム)	35分 (実技試験 を含む)
10	いろいろな調の主要 三和音・属七の 和音とコードネーム1	講義	・ト、ヘ、ニ長調の音階、和音を理解し、和音記号をから主要三和音を探る。 ・ト、ヘ、ニ長調主要三和音のコードネームを理解する。	34分
		演習	・ト、ヘ、ニ長調の主要三和音を左手で弾く。	6分

11	いろいろな調の主要三和音・属七の和音とコードネーム2、ト長調主要三和音の演習	講義	・ト、ヘ、ニ長調主要三和音の和音記号とコードネームが一致する力を習得する。 ・属七の和音について理解する。	25分
		演習	・「きらきらぼし」を用いて、ト、ヘ、ニ長調主要三和音の簡易伴奏法を習得する。 ・「とんぼのめがね」を用いて、ト長調主要三和音の簡易伴奏法を習得する。	15分
12	ヘ長調とニ長調主要三和音の演習	講義	・ヘ、ニ長調主要三和音の和音記号とコードネームが一致する力を習得する。	20分
		演習	・「うみ」を用いて、転調の仕組みを理解する。 ・「とんぼのめがね」、「あわてんぼうのサンタクロース」を用いて、ヘ長調主要三和音の簡易伴奏法を習得する。	20分
13	移調と伴奏付け	講義	・移調の理論及び方法を理解する。	25分
		演習	・「春が来た」、「かたつむり」を用いて、左手のみの簡易伴奏を移調する。	10分
14	様々な伴奏形	講義	・左手のみの簡易伴奏を変化させることによって生まれるリズムパターンを知る。	20分
		演習	・「ちょうちょう」を用いて、リズムパターンを活用した簡易伴奏法を習得する。	15分
15	移調と伴奏付けの確認	-	・筆記試験②(和音、調性、移調、ハ、ト、ヘ、ニ長調主要三和音の基本形と転回形、和音記号、コードネーム) ・実技試験②(ト、ヘ、ニ長調の和音記号及びコードネームによる簡易伴奏法)	35分 (実技試験を含む)
16	定期試験	-	・集団授業は実施しない。	-

4-3. 確認試験(筆記)の概要と結果

確認試験(筆記)は、調判定、基礎知識、主要三和音のコードネーム、楽譜の読み取り(コードネーム・調判定)、和音記号、移調について24問を出題する。

問1の調判定では、#が二つまでとbが一つ付く調について、調性を判定する4問を出題した。結果は、以下のとおりである(表2)。

表2 問1の結果

問題番号	内容	正解率	不正解率	無解答率
(1)	ヘ長調の調判定	100.0%	0.0%	0.0%
(2)	ニ長調の調判定	96.6%	3.4%	0.0%
(3)	ハ長調の調判定	98.9%	1.1%	0.0%
(4)	ト長調の調判定	97.8%	2.2%	0.0%
	平均値	98.3%	1.7%	0.0%

問2の基礎知識では、主音、和音、主要三和音、音名、調号、移調について、説明文の空欄に語句を記入する10問を出題した。結果は、以下のとおりである(表3)。

表3 問2の結果

問題番号	内容	正解率	不正解率	無解答率
(1)	主音の理解	88.8%	11.2%	0.0%
(2)	和音の理解	94.4%	3.4%	2.2%
(3)	主要三和音の理解	100.0%	0.0%	0.0%
(4)	音名の理解	93.3%	6.7%	0.0%
(5)	調号の理解	80.9%	15.7%	3.4%
(6)	調号(#系)の理解①	100.0%	0.0%	0.0%
(7)	調号(#系)の理解②	97.8%	2.2%	0.0%
(8)	調号(b系)の理解①	97.8%	2.2%	0.0%
(9)	調号(b系)の理解②	80.9%	19.1%	0.0%
(10)	移調の理解	96.6%	3.4%	0.0%
	平均値	93.0%	6.4%	0.6%

問3の主要三和音のコードネームでは、ハ、ト、ヘ、ニ長調の主要三和音のコードネームを記入する問題を4問出題した。結果は、以下のとおりである（表4）。

表4 問3の結果

問題番号	内容	正解率	不正解率	無解答率
(1)	ハ長調のコードネーム	100.0%	0.0%	0.0%
(2)	ニ長調のコードネーム	96.6%	3.4%	0.0%
(3)	ヘ長調のコードネーム	95.5%	4.5%	0.0%
(4)	ト長調のコードネーム	100.0%	0.0%	0.0%
	平均値	98.0%	2.0%	0.0%

問4の楽譜の読み取りでは、調判定、和音記号、移調とコードネームの問題を3問出題した。結果は、以下のとおりである（表5）。

表5 問4の結果

問題番号	内容	正解率	不正解率	無解答率
(1)	調判定	98.9%	1.1%	0.0%
(2)	和音記号の理解	95.5%	4.5%	0.0%
(3)	移調とコードネームの理解	88.8%	11.2%	0.0%
	平均値	94.4%	5.6%	0.0%

問5の楽譜の読み取りでは、調判定、和音記号、移調とコードネームの問題を3問出題した。結果は、以下のとおりである（表6）。

表6 問5の結果

問題番号	内容	正解率	不正解率	無解答率
(1)	調判定	100.0%	0.0%	0.0%
(2)	和音記号の理解	95.5%	4.5%	0.0%
(3)	移調とコードネームの理解	97.8%	2.2%	0.0%
	平均値	97.8%	2.2%	0.0%

4-4. 確認試験（実技）の概要と結果

確認試験（実技）は、2問を出題する。まず、事前に提示している10曲の課題があり、当日指定された調で左手のみの和音を弾く問題である。また、公平な審査を行うために、担当教員が問題にランダムな記号を付し、学生は試験開始時に自分の好きな記号を受験表に記入する。そして、その記号の「調」や「曲」を演奏する方法をとった。

問1は、和音記号を見ながら、当日指定された調で左手のみの和音を弾く問題である。そして、問2は、10曲の課題の中から当日指定された曲を指定された調に移調して左手のみのコード伴奏を行う問題である。評価基準及び結果は以下のとおりである（表7）。

表7 評価基準及び結果

評価	基準	問1の結果	問2の結果
5点	和音の音変更がスムーズであり、構成音を正しく演奏することができる。	48.3%	41.6%
4点	和音の音変更はスムーズでないが、構成音を正しく演奏することができる。	20.2%	28.1%
3点	学生自身が音のミスに気づいており、やり直すことあるが構成音を正しく演奏することができる。	14.6%	12.4%
2点	和音の構成音を間違えている部分がある。	11.2%	13.5%
1点	和音の構成音を間違えている部分があり、演奏することができない。	5.6%	2.3%
0点	演奏できない。	0.0%	2.3%

5. 研究結果と考察

5-1. 確認試験（筆記）

問1の調判定では、#が二つまでとbが一つ付く調について、調性を判定する4問を出題し、平均正解率は98.3%であった。ここでは、調号の種類と調号の数から調性を判定するための音楽理論の理解が必要であると考えられる。

- (1) の正解率は100.0%であった。これは、全員がへ長調の調号について理解していると考えられる。
- (2) の正解率は96.6%、不正解率は3.4%であった。これは、二長調の調号について理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、ト長調、イ長調であった。二長調の調号は#が二つであるのに対して、ト長調の調号は#が一つである。また、イ長調は#が三つであることから、二長調が#系の調性であることは理解できていると考えられる。さらに、この問題は一点イ音から始まることから、調号ではなく開始音からイ長調と判定した可能性が考えられる。
- (3) の正解率は98.9%、不正解率は1.1%であった。これは、ハ長調の調号について理解できていない学生がいると考えられる。不正解者の解答は、ホ長調であった。この問題は一点ホ音から始まることから、調号ではなく開始音から調性を判定した可能性が考えられる。
- (4) の正解率は97.8%、不正解率は2.2%であった。これは、ト長調の調号について理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、ト調長、二長調であった。ト調長と書いた学生は、誤って覚えていることが考えられる。また、ト長調の調号は#が一つであるのに対して、二長調の調号は#が2つの調性であることから、ト長調が#系の調性であることは理解できていると考えられる。

問2の基礎知識では、主音、和音、主要三和音、音名、調号、移調について、説明文の空欄に語句を記入する10問を出題し、平均正解率は93.0%であった。ここでは、基礎知識について書かれた文章を理解し、空欄に語句を導き出す基礎が必要であると考えられる。

- (1) の正解率は88.8%、不正解率は11.2%であった。これは、主音について理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、根音、幹音であった。主音は各音階の始まりの音、根音は音階の上に3度ずつ音を積み重ねた和音の最低音のことであり、主音が根音と考えられる場合もある。また、根音についても繰り返し学習していることから、主音と根音を混同していることが考えられる。幹音は、講義では取り上げていないため、不正解者が幹音についての知識を持っており、主音と混同したことが考えられる。
- (2) の正解率は94.4%、不正解率は3.4%、無解答率は2.2%であった。これは、和音について理解が不十分な学生と、全く理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、ハーモニー、三和音、音階であった。和音は、高さの異なる三つ以上の音が同時に響いたものである。ハーモニー、三和音は、どちらも和音に関係する用語であることから、和音に関係するものであることは、理解できて

いると考えられる。音階は、音楽で使われる音を、一定の基準にしたがって音の高さの順に並べられたものであることから、和音の概念を理解できていないことが考えられる。

- (3) の正解率は100.0%であった。これは、全員が主要三和音を理解できていると考えられる。
- (4) の正解率は93.3%、不正解率は6.7%であった。これは、二長調の音階が理解できていない学生がいることが考えられる。しかし、不正解者の解答は、全てが二調であった。二が主音を表していることは理解できていると考えられる。また、二長調の音階が理解できていないのではなく、二長調の意味を理解できていないことが考えられる。
- (5) の正解率は80.9%、不正解率は15.7%、無解答率は3.4%であった。これは、調号について理解が不十分な学生と、全く理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、臨時記号、#、ファ、和音記号、符号、等号、根号、調合と様々であった。調号は何調であることを示す記号であり、変化記号の#とbが使われる。臨時記号と#も、変化記号に関係するものであることから、臨時記号、#と解答した学生は、変化記号に関係する問題であることは理解できていると考えられる。ファは、#系の調号として初めに#がつく音であることから、調号に関係するものであることは理解できていると考えられる。和音記号、符号、等号、根号と解答した学生は、問題文章の内容を理解できていないと考えられる。調合は、誤って覚えていることが考えられる。また、無解答率が3.4%と高く、調号の意味を理解できていない学生がいることも考えられる。
- (6) の正解率は100.0%であった。これは、全員が#系の調号の仕組みを理解できていると考えられる。
- (7) の正解率は97.8%、不正解率は2.2%であった。これは、b系の調号の仕組みを理解できていない学生がいることが考えられる。しかし、不正解者の解答は、ファ・ド、トであった。ファ・ドと解答した学生は、二つ目に#をつける音は「ド」であると理解していたが、解答の記入方法を誤った可能性が考えられる。トと解答した学生は、日本音名で解答したことが考えられたが、(6)の解答を「ファ」とイタリア音名で記入していることから、書き誤った可能性が考えられる。
- (8) の正解率は97.8%、不正解率は2.2%であった。これは、調号bを用いる際に、一つ目にbをつける音を理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、ラ、ソであった。調号bを用いる際のbをつける順番が理解できていないと考えられる。
- (9) の正解率は80.9%、不正解率は19.1%であった。これは、調号bを用いる際に、bをつける順番が理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、シ・ミ、ド、レ、ファ、ソ、ラと様々であった。b系の調性については講義で習得しているが、演習ではへ長調のみ取り上げたため、調号にbが2つである変口長調についての理解が深まらず、不正解率が高くなったことが考えられる。
- (10) の正解率は96.6%、不正解率は3.4%であった。これは、移調について理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の解答は、転調、異調であった。移調は曲全体の調性を変えることであるのに対し、転調は曲の途中で調が変わることであることから、移調と転調を混同して覚えていることが考えられる。異調は誤って覚えていることが考えられる。

問3の主要三和音のコードネームでは、ハ、ト、ヘ、二長調の主要三和音のコードネームを記入する問題を4問出題し、平均正解率は98.0%、平均不正解率は2.0%であった。ここでは、ハ、ト、ヘ、二長調の主要三和音のコードネームを書くための音楽理論の理解が必要であると考えられる。

- (1) の正解率は100.0%であった。これは、全員がハ長調の主要三和音のコードネームについて理解できていると考えられる。
- (2) の正解率は96.6%、不正解率は3.4%であった。これは、二長調の主要三和音のコードネームについて理解できていない学生がいることが考えられる。二長調主要三和音のコードネームはD・G・Aである。不正解者の解答は、D・A・B、D・G・C、D・G・Bであり、主和音のコードネームは理解で

きていると考えられる。

(3) の正解率は95.5%、不正解率は4.5%であった。これは、へ長調の主要三和音のコードネームについて理解できていない学生がいることが考えられる。へ長調主要三和音のコードネームはF・B^b・Cである。不正解者の解答は、全てF・B・Cであり、下屬和音のコードネームを理解できていないと考えられる。

(4) の正解率は100.0%であった。これは、全員がト長調の主要三和音のコードネームについて理解できていると考えられる。

問4の楽譜の読み取りでは、調判定、和音記号、移調とコードネームの問題を3問出題し、平均正解率は94.4%、平均不正解率は5.6%であった。ここでは、調号の種類と数から調性を判定すること、コードネームを読み取り対応する和音記号を書くこと、移調した調性のコードネームを書くことの理解を深めることが必要であると考えられる。

(1) の正解率は98.9%、不正解率は1.1%であった。これは、ト長調の調号について理解できていない学生がいることが考えられる。しかし、不正解者の解答はト調長であった。ト長調であると理解はできているが、文字を誤って書いた、または誤って覚えていることが考えられる。

(2) の正解率は95.5%、不正解率は4.5%であった。これは、ト長調のコードネーム及び和音記号が理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の中には、和音記号ではなく数字を記入している者がおり、和音記号が理解できていないと考えられる。また、ト長調のコードネームに対応する和音記号が答えられていないことから、コードネームが理解できていない、ト長調の和音記号が理解できていないことが考えられる。

(3) の正解率は88.8%、不正解率は11.2%であった。これは、ト長調からへ長調への移調、へ長調のコードネームが理解できていない学生がいると考えられる。不正解者の中には、コードネームではなく和音記号で答えている学生がおり、コードネームを理解できていないことが考えられる。また、その他の不正解では、ト長調からへ長調へ移調した際のへ長調に対応するコードネームが答えられていないことや、へ長調の下屬和音のコードネームが「B^b」であるところを「B」と解答していることから、移調、へ長調のコードネームについて理解できていないと考えられる。

問5の楽譜の読み取りでは、調判定、和音記号、移調とコードネームの問題を3問出題し、平均正解率は97.8%、平均不正解率は2.2%であった。ここでは、問4と同様に、調号の種類と数から調性を判定すること、コードネームを読み取り対応する和音記号を書くこと、移調した調性のコードネームを書くことの理解を深めることが必要であると考えられる。

(1) の正解率は100.0%であった。これは、全員がへ長調の調号について理解できていることが考えられる。

(2) の正解率は95.5%、不正解率は4.5%、無解答率は0.0%であった。これは、へ長調のコードネーム、和音記号が理解できていない学生がいることが考えられる。不正解者の中には、和音記号ではなく数字を記入している学生がおり、和音記号が理解できていないと考えられる。また、その他の不正解では、へ長調のコードネームに対応する和音記号が答えられていないことから、コードネームが理解できていないこと、へ長調の和音記号が理解できていないことが考えられる。

(3) の正解率は97.8%、不正解率は2.2%であった。これは、へ長調からハ長調への移調、ハ長調のコードネームが理解できていない学生がいると考えられる。不正解者の解答は、へ長調からハ長調へ移調した際のハ長調に対応するコードネームが答えられていないことから、移調、ハ長調のコードネームが理解できていないことが考えられる。

5-2. 確認試験（実技）

問1は、和音記号を見ながら、当日指定された調で左手のみの和音を弾く問題である。評価5は48.3%、評価4は20.2%、評価3は14.6%、評価2は11.2%、評価1は5.6%であった。ここでは、ト長調、ヘ長調、ニ長調のI、IV、Vの構成音の理解と、I、IV、Vを簡易伴奏形で弾く際の手の形の習得、和音を連結する際の手の運びの習得が必要であると考えられる。

評価5、評価4は、各調の構成音を理解し、簡易伴奏形で弾く演奏の習熟度が高いと考えられる。評価5及び評価4の割合を合わせると68.5%であった。そして、評価3は、演奏の習熟度が不足していると考えられ、弾き歌いの簡易伴奏を滞りなく行うだけの演奏技術を習得できていないと考えられる。また、評価2、評価1の割合を合わせると16.8%であった。これは、左手による簡易伴奏形で弾く演奏の習熟度が低いと考えられる。

問2は、10曲の課題の中から当日指定された曲を指定された調に移調して左手のみのコード伴奏を行う問題である。評価5は41.6%、評価4は28.1%、評価3は、12.4%、評価2は13.5%、評価1は2.3%、評価0は2.3%であった。楽譜を見て調を判定する音楽理論の理解、楽譜に記されたコードネームと和音記号を読み取る音楽理論の理解、移調の音楽理論の理解が必要であり、さらにコードネームと和音記号を見て、移調した調性のコード伴奏をする能力の習得が必要であると考えられる。

評価5、評価4は、課題を指定された調に移調して左手のみのコード伴奏をするのに必要な音楽理論を理解し、演奏技術の習熟度が高いと考えられる。評価5と評価4の割合を合わせると69.7%であった。そして、評価3は、課題を指定された調に移調して、左手のみのコード伴奏をするための音楽理論は理解しているが、演奏技術の習熟度が低く、弾き歌いの簡易伴奏を行うだけの演奏技術を習得できていないと考えられる。また、評価2、評価1、評価0の割合を合わせると18.1%であった。これは、課題を指定された調に移調して、左手のみのコード伴奏をするための音楽理論が理解できておらず、演奏技術の習熟度が低いと考えられる。

6. まとめと課題

本研究において、それぞれの観点における学生の基礎的な音楽理論の理解度、左手による簡易伴奏法の演奏技術の習熟度、音楽理論の理解が不可欠な簡易伴奏課題の習熟度についての結果が得られ、現在の授業内容に補足しなければならない点があった。また、講義の理解度と演習の習熟度には差があることもわかった。

筆記試験では、24問中20問の正解率が90%を越えていた。この結果から、基礎的な音楽理論の理解度は高いと考えられる。また、講義における課題として考えられることは、①調号、②書き誤りやすい音楽用語、③類似した意味をもつ音楽用語の3点について補足することである。これらの補足によって学生の意識を高め、さらに理解度を高めることができていると考えている。しかし、限られた授業時間内で現在の授業内容に補足するためには、伝え方の工夫や、授業進行の見直しも必要になると考えている。

実技試験では、簡易伴奏法の習熟度が十分であるという評価の割合は約70%であり、習熟度が不十分である、または、習熟できていないという評価の割合は約30%であった。子どものうたう活動を指導・援助するピアノ伴奏を行うためには、簡易伴奏法の習熟度を高める必要があると考えている。

筆記試験と実技試験の結果から、音楽理論の理解度は総合的に高いと考えられるが、簡易伴奏法における演奏技術の習熟度は低い学生も少なくない。以上の結果が得られた上で、改めて授業時間の配分を見ると、集団授業における講義時間の合計は5時間11分、演習時間の合計は1時間49分となっており、大きな差が出ていた。この時間の差が、音楽理論の理解度と簡易伴奏法の習熟度の差に関係しているのではないかと考えている。保育・教育現場で簡易伴奏による弾き歌いをするためには、音楽理論を理解した上で演奏

技術の習得が必要であると考え、授業内容を構成している。しかし、確認試験の結果からもわかるように、簡易伴奏法を繰り返し練習し体得しなければならないことがわかった。演習課題として考えられることは、1回でも多く簡易伴奏形を演奏できるよう、授業進行を考えることである。

筆者は、保育士・教員養成課程に在籍する全ての学生が、保育・教育現場において、自信を持って子どもと音楽表現を楽しむことができる簡易伴奏法を習得できる授業環境を提供していきたいと考えている。

註釈

- 1) 武田恵美, 保育士養成課程及び教員養成課程における授業展開―「音楽Ⅲ」の実践をとおして―, 東海学園大学教育研究紀要第2巻第2号, 105-112, 2018

参考文献

- 1: 木許隆、荒井弘高、岩佐明子、大塚豊子、高御堂愛子、田中知子、土門裕之、藤本逸子「小学校教諭・保育者をめざす 音楽の基礎 改訂版」圭文社, 2018


【参考資料】

音楽Ⅲ クラス授業 定期試験


クラス	木4 金1 / 金2	学籍番号		氏名	
-----	---------------	------	--	----	--

●(1)~(4)の楽譜を見て、それぞれ何調か答えなさい。但し、全て長音階の曲である。

(1)



(2)



(3)



(4)



(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

● () に当てはまる語句を書きなさい。

- (1) それぞれの調の、音階の始まる音を (①) という。
- (2) 高さが異なる音が同時に響くと (②) になる。
- (3) それぞれの調の 1 度の和音、4 度の和音、5 度の和音 は重要で (③) とよばれる。
- (4) 主音が “レ” の明るい響きの音階は (④) 調 である。
- (5) その曲が何調であるかを一目でわかるようにした記号を (⑤) といい、(⑤) は、楽譜の音部記号 (ト音記号、ヘ音記号等) のすぐ横に書かれる。
- (6) 調号が 半 1 つの場合、# を付ける音は (⑥) であり、半 2 つの場合は (⑦) と (⑧) である。
- (7) 調号が 全 1 つの場合、♭ を付ける音は (⑨) であり、全 2 つの場合は (⑩) と (⑪) である。
- (8) ある曲を、1 曲丸ごと別の調に移調することを (⑫) という。

(1)	(2)	(3)	(4)	調	(5)
(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)

●主要三和音について答えなさい。

- (1) へ長調の主要三和音をコードネームで表しなさい。
- (2) 二長調の主要三和音をコードネームで表しなさい。
- (3) へ長調の主要三和音をコードネームで表しなさい。
- (4) 長調の主要三和音をコードネームで表しなさい。


(1)	(2)
(3)	(4)

●楽譜を見て答えなさい。

(1) この曲は何調ですか、()

(2) コードネームの横の【 】に、和音記号を書きなさい。

(3) この曲を“へ長調”に移調した時のコードネームを、() に書きなさい。



●楽譜を見て答えなさい。

(1) この曲は何調ですか、()

(2) コードネームの横の【 】に、和音記号を書きなさい。

(3) この曲を“へ長調”に移調した時のコードネームを、() に書きなさい。

